

インターネット利用が青少年の性的リアリティに及ぼす影響

—高校生を対象とする2波パネル調査—

○樫淵めぐみ¹・安藤玲子²・鈴木佳苗¹・桂(赤坂)瑠以³・熊崎(山岡)あゆち³・坂元章³

(¹筑波大学・²金城学院大学・³お茶の水女子大学)

キーワード: 性的経験, 割合推測, 因果関係

The effects of Internet use on adolescents' sexual reality: A two-wave panel study with Japanese high school students.

Megumi KASHIBUCHI¹, Reiko ANDO², Kanae SUZUKI¹, Rui KATSURA³, Ayuchi KUMAZAKI³, and Akira SAKAMOTO³

(¹Univ. of Tsukuba, ²Kinjo Gakuin Univ., ³Ochanomizu Univ.)

Key words: sexual experiences, rate estimation, causal relationship

目 的

性体験の若年化が進んでおり、高校3年生の3割程度が性体験をもつという(日本性教育協会, 2007)。性体験の若年化には様々な要因が関わるが、若者が同年代のセックス経験率を過大視しており、「皆がしている」「仲間から遅れたくない」という意識が、若年での性体験の容認や動機づけを高めるという可能性がある(若尾, 2006)。このような性的な現実認識(性的リアリティ)の形成因として、メディアの役割が指摘される。メディア研究における有力な理論の一つである「培養理論」では、メディアに接することで、メディアに描かれた世界と現実の世界を混同するようになる(gerbnerら, 1986)、これに従えば、メディアでは若年者のセックスや妊娠、レイプなどが数多く描かれているため、これらを頻繁に目にすることで、現実世界には実際よりも高い割合でこれらの出来事が起きていると推測するようになると予想される。

本研究では、近年、青少年への普及が著しいインターネットに焦点を当て、INET 利用が青少年の性的経験の推定に及ぼす影響について、2波パネル調査により検討することを目的とする^注。

方 法

調査時期 2009年12月と2010年6~7月の2回実施された。

調査対象者 2回の調査に回答した全国の高校1~2年生885名(男子342名・女子543名)を分析対象とした。

質問項目 INET 利用量 ①コミュニティ・サイト、②動画サイト、③自作小説・マンガのサイト、④芸能人などの公式サイトやブログの4ジャンルについて、1週間の平均利用時間を、使っていない(0)、10分未満(1)、10~30分(2)、30分~1時間(3)、1~2時間(4)、2~3時間(5)、3時間以上(6)、の7件法で尋ねた。

仲間の性的経験の推定 日本に住んでいる同年代の青少年の性的な行動として、①平均初交年齢(男女別)、②セックス経験率(男女別)、③STD罹患経験率(男女別)、④援助交際経験率(女子のみ)、⑤妊娠中絶経験率(女子のみ)、⑥レイプ被害経験率(女子のみ)の6種類9項目について推測させ、①は年齢を、②~⑥はパーセンテージを尋ねた。

デモグラフィック変数 学年、クラス、性別などを尋ねた。

手続き クラスごとに一斉実施され、その場で回収された。

結 果

基礎統計量 INET 利用量と性的経験の推定値の各項目について、男女別に平均値を求めた(表1)。その結果、INET 利用量については、男女ともコミュニティ・サイトと動画サイトの利用量が多く、動画サイト以外のすべてのジャンルにおいて、男子よりも女子の利用量が多いことが示された。性的経験の推定値については、いずれの項目についても、非現実的に高く(初交年齢については低く)推定していることが示された。

INET 利用量と性的経験の推定値の因果関係 2回目調査時の性的経験の推定値を従属変数とし、1回目調査時の推定値とINET 利用量を独立変数とする重回帰分析を、男女別に行った。その結果、男子では、動画サイトを利用するほど援助交際($\beta=.11^*$)とレイプ被害($\beta=.10^*$)の経験率を高く推定することが示された。

女子では、コミュニティ・サイトを利用するほど男子($\beta=.12^{**}$)と女子($\beta=.13^{***}$)のセックス経験率を高く推定し、動画サイトを利用するほど男子($\beta=.12^{**}$)と女子($\beta=.12^{**}$)のSTD罹患率と、援助交際($\beta=.17^{***}$)、妊娠中絶($\beta=.08^*$)、レイプ被害($\beta=.08^*$)の経験率を高く推定し、自作小説・マンガのサイトを利用するほどレイプ被害の経験率を高く推定し($\beta=.07^*$)、公式サイト・ブログを利用するほど男子($\beta=.10^{**}$)と女子($\beta=.09^*$)のセックス経験率と、援助交際の経験率($\beta=.08^*$)を高く推定することが示された。

考 察

本研究の結果、INET を利用するほど、青少年が同世代の性的経験をより活発な方向に推定するようになることが示され、INET が青少年の性的リアリティに及ぼす影響が確認された。INET の影響は、ジャンルにより強さが異なっており、また、男子よりも女子で、より顕在化していた。特に女子においては、コミュニティ・サイトと公式サイト・ブログの利用が同世代のセックスや援助交際の経験率を高く認識させる傾向が見られたが、「みんながセックスを経験している」との認識は、自身の性経験への促進効果をもたらす可能性もあり、INET 利用が性的リアリティを媒介し、性行動に影響するかについて、今後検討していく必要がある。

表1 INET 利用量と性的経験の推定値の男女別平均値

	男子		女子	
	1回目	2回目	1回目	2回目
①コミュニティ・サイト	1.50	1.39	2.49	1.98
②動画サイト	2.37	2.18	2.32	2.28
③自作小説・マンガ	0.61	0.54	1.61	1.19
④公式サイトやブログ	0.54	0.53	1.44	1.31
①初交年齢(男)	17.84	17.81	16.87	16.72
(女)	16.96	17.27	16.92	16.81
②セックス経験率(男)	32.99	32.28	38.84	40.03
(女)	37.14	34.65	36.68	37.14
③STD罹患率(男)	15.61	11.84	16.30	14.91
(女)	17.09	12.91	17.36	16.03
④援助交際経験率(女)	18.30	13.22	19.16	14.96
⑤妊娠中絶経験率(女)	12.59	9.65	15.49	14.25
⑥レイプ被害経験率(女)	14.08	9.71	16.29	13.60

引用文献

- Gerbner, G., Gross, L., Morgan, M., & Signorielli, N. (1986) Living With Television: The Dynamics of the Cultivation Process. In *Perspectives on Media Effects*. Jennings Bryant and Dolf Zillman. (Ed.) New Jersey, Pp. 17-40.
- 樫淵めぐみ・安藤玲子(2011)平成22年度共同研究報告書 インターネット利用と性意識・行動の関係性に関する研究 三菱総合研究所
- 日本性教育協会(編)(2007)「若者の性」白書 第6回 青少年の性行動 全国調査報告— 小学館
- 若尾良徳(2006)女子短大生にみられる性体験率の過大視とマス・メディア接触による影響 和洋女子大学紀要人文系編, 46, 71-82.

注: 本研究は、三菱総合研究所、安心ネットづくり促進協議会と連携して行われた(樫淵・安藤, 2011)。調査実施にあたり、総務省の協力を得た。